

## 従来の防災計画と BCP の違い

従来の企業防災とは懸念される災害に備え、生命の安全確保や業務全般の被害軽減に重点を置き、重要業務の絞り込みとその具体的な復旧目標は被災の状況を見て検討するという考えであった。だから主たる目的は、建物への損害軽減と人命優先。だから地震で建物は壊れたが人は死ななかつた 良かったね・・・というような事が企業の防災であった。しかし従来の防災計画とBCPの違いがはっきりしているのは、被災を現実のものと捉え、絞り込んだコアとなる重要業務の復旧目標などを取り入れた対策に従い、被災後に活用できる限られた資源にメリハリを付け有効的に投入、ビジネス継続を早期に実現する計画。(事業の継続、雇用維持、地域貢献)が本来のBCPである。

BCMの本質とは

災害や事故、突然の業務停止、その他急激な経営環境変化などの、

①危機的状況に出来るだけ陥らないように事前の対策を行う。

ただし、どのような対策を実施しても、

②危機的状況が発生することを前提に

その状況下でも企業や組織活動を維持継続するために、

③事前にどのように行動するかを明らかにし

④迅速な行動が出来るように準備をしておくことがBCMの取組である。

必要な取り組みの全体像(守るべきものと継続すべきもの)は

BCMは重要業務を時間内に再開するための取組みであり、〈重要業務担当部門に限定した取組み〉建物・設備・ITCボトルネックへの徹底した強化対策。代替手段準備、役割分担と代替切替手順作成 代替切替訓練など、早い対応が必要な業務の絞込み業務を早く復旧するための取組み〈各業務部門単位〉

建物・設備・ICTボトルネックへの対策

顧客・取引先緊急連絡網整備

役割分担と復旧プロセスの共有作成

重要データ保存

参集・被害確認訓練をいう。

防災とは人命を守るための取組み(防災)〈全事業所・拠点単位〉である。

建物設備の減災、役割分担と対応手順作成、備蓄品配備、社内緊急連絡網・安否確認方法整備、防災訓練などである。

この説明においてもBCPとは取組みは異なっていることを認識するべきだ。

BCPについても様々な問題も多い。

・経営者や事業責任者が、不測の事態における事業継続の必要性を感じていない。

・過去の経験(大規模地震等)を絶対のものとしており、今後もその通りに対応すれば問題無いと考えている。

・顧客から取り組みの要請が無い。あっても気付いていない。

このような意識のハードルが超えられない事が非常に問題ではないだろうか。

長瀬 雅彦

